

いとたけの道<sup>みち</sup>

加羅古呂庵 一泉

## いとたけの道

石橋谷邑<sup>いしはしれいゆう</sup>氏が作られた詩※の「糸竹の道<sup>いとたけ</sup> きわめあい 指南の灯<sup>しなん あかり</sup> 消ゆることなく」という一節をもとに、箏・十七絃と尺八の合奏曲をつくりました。

糸竹の道をきわめるとは、曲の奥義を探り、技の向上を追究していくという意味もあるでしょう。長く受け継がれてきた曲は、貴重な文化的遺産であり、これを伝えていくことは、現代に生きる私たちにとって重要な責務です。

その一方で、三曲系邦楽の世界は縮小が続き、伝統を受け継ぐ人がいなくなりかねません。伝統的といわれる曲も、その曲が発表された当時に遡ってみれば、時代の最先端であり、それが多くの人々に受け入れられてきたからこそ、今日まで伝わっているのでしょう。三曲系邦楽の歴史の中で、名前が残っている人たちは、伝統を守るといふより、画期的なイノベーションを起こした人が多いように思われます。未来に向けて、単に楽器演奏者ととどまらず、社会の多くの人々に受け入れられる曲や演奏を創造していくことも、糸竹の道をきわめることにつながるに違いありません。

歴史を遡るとともに、未来に向かって邦楽が発展していくことを願い、「ともがらの結び和をもて」「求道の波路 洋々と」「指南の灯 消ゆることなく」の3つのシーン（場面）から構成しました。

（尺八丈清会 第25回尺八演奏会のために）

※『尺八丈清会歌』

※縦譜につきましては、当該楽器のほかには他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に置き換えて記載しています。正確には、五線譜（スコア）をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ



The musical score is presented in five staves. The top two staves are for the Shakuhachi (尺八), labeled 尺八I and 尺八II, both using a 1尺8寸管 (1 shaku 8 sun). The next two staves are for the Jo (箏), labeled 箏I and 箏II, both using a 六・斗 (roku-tsu) tuning with a key change (調弦替えあり). The bottom staff is for the Shichu-ge (十七絃), which is transcribed in a bass clef. The score includes rhythmic notation (dots and lines) and lyrics: 一 三 五 七 九 斗 為 巾. The Shichu-ge staff has a unique notation with numbers 1, 3, 5, 7 below the notes.

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。